

「6月が潮目だと思っ
る」と語るのは中田商事(三
重県伊賀市)の中田純一社長。
建築資材輸送をメインに手掛
ける同社は、大震災が起こっ
た3月以降、3か月間の売り
上げが前年比マイナス15%と
激減した。ただ、「止まって
いた分は必ず戻ってくる」と
し、苦しい時期に準備を整え
ている。その一つが人材確保。
「ほしくときに探しても遅い。
震災復興などで人手が足りな
くなる前に確保しておく必要
がある」とし、増車とともに
ドライバー10人を増員した。

また、自身にとっても節目
の時期となっている。1月に
状態の悪かった股関節の手術を行った。人
工関節を入れるなどした手術は無事成功
し、リハビリ後の4月には現場に復帰。歩
けないほどだった痛みも大幅にやわらい
だ。「仕事はほとんどノータッチだった2
か月間で、自分自身をリセットできた」と
も振り返る。5月には工場の出荷が始ま
り、同時に自社倉庫の受け入れ案件も増え
てきた。今後もっと条件のいい仕事が出て
くる可能性も頭をよぎるが、持ち前でもあ
る先手必勝で取り組むという。「会社にとっ
ても自分にとっても、6月が大きな潮目で

「潮目は6月」と準備

足りなくなる前に運転者確保

中田商事
中田純一社長



あり勝負の月だと
思っている」と力
を込める。逆境を
乗り越えた後の飛
躍に期待を寄せ
る。(加藤 崇)